1960 年生まれ。
東京大学農学部で生化学を専攻した後、化学メーカーの研究
所でバイオの研究に従事。その後、筑波大学大学院で社会学
に転向し、環境社会学、科学社会学を専攻。生命科学と社会
との相互作用、環境問題との関係などを研究している。
講演要旨
１． 遺伝子組換え生物（ＧＭＯ），遺伝子組換え（ＧＭ）
食品とは何か？ 何が問題なのか？
２． 健康と環境へのリスクをめぐるコミュニケーション
の問題：素人と専門家の対立
３． 飢餓と食料をめぐる問題、農業の工業化の問題・途
上国と先進国の対立
４． 生物多様性と遺伝子汚染の問題：自然と社会の対立
５． これらの対立から何が生まれるのか？
参考文献
・大塚善樹『遺伝子組換え作物・大論争』（2001 年、明石書店）
・大塚善樹「公共性、または生命の外部」『現代思想』（2003 年 11 月号、青土社）
・大塚善樹「『食と農の分離』における『専門家と素人の分離』」『環境社会学研究第９号』（2003、有斐閣）
: 場
所